

# 新井柿崎線整備促進議員連盟が県土木部長に歩道整備などを要請

県道新井柿崎線整備促進議員連盟（宮崎政国会長）は11日、県庁を訪れ、県土木部長に要望書を手渡ししました。これには日本共産党議員団から橋本正幸議員が参加しました。

県道新井柿崎線は全長31・6キロの主要地方道です。上越市の南北を走る幹線道路で、1日当たり7500台からの交通量があります。そのうち大型車は1600台（21%）ですが、道幅の狭いところや歩道がないところ、防雪柵が必要などがあり、早急な整備が求められています。

同議員連盟では7月31日の現地調査に基づいて、側溝整備、歩道設置、防雪柵設置などを要望書に盛り込み、整備促進を求めまし



た。参加者によると、県土木部長は誠実な対応を約束したということとです。（写真は要望書を手渡す宮崎会長など一行）

## 地吹雪等での対策における国、県との連携調整体制強化を

市議会災害対策特別委員会が6日、開かれました。今回は上越市の地域防災計画の修正案が議題です。土砂災害対策、火山災害対策、大規模広域災害対策などでの修正案について説明を聞き、質疑を行いました。

私からは、「昨年の1月下旬、中越地方で発生した短期間の異常降雪と地吹雪などでの交通渋滞の経験を踏まえて、市・県・国のとの間で連携調整体制を整備するとの案になっているが、次の降雪まで2カ月ほどだ。どうなっているか」「消防防災ヘリ、ドクターヘリは山間地などで多数の負傷者の搬送に支障があるときは、必要に応じて医療機関に搬送するとしているが、負傷者が1名でも搬送してもらわなければならないこともある。どう考えるか」などと質問しました。

私の質問に対して防災危機管理部の担当者は、異常降雪、地吹雪などでの大渋滞を防ぐ連携調整体



ました。また消防防災ヘリ、ドクターヘリの出動については、「計画はそうなっているが、現実には1名でも対応している。今後、文言の修正要求が出たことを県にも伝えていく」とのべました。右の写真は昨年1月24日夜に私が撮ったもの。じつは私も昨年の中越大渋滞に巻き込まれていたのです。

この日の委員会では他の委員から、「県の地域防災計画が修正されてから市の地域防災計画が修正されるまでの時間

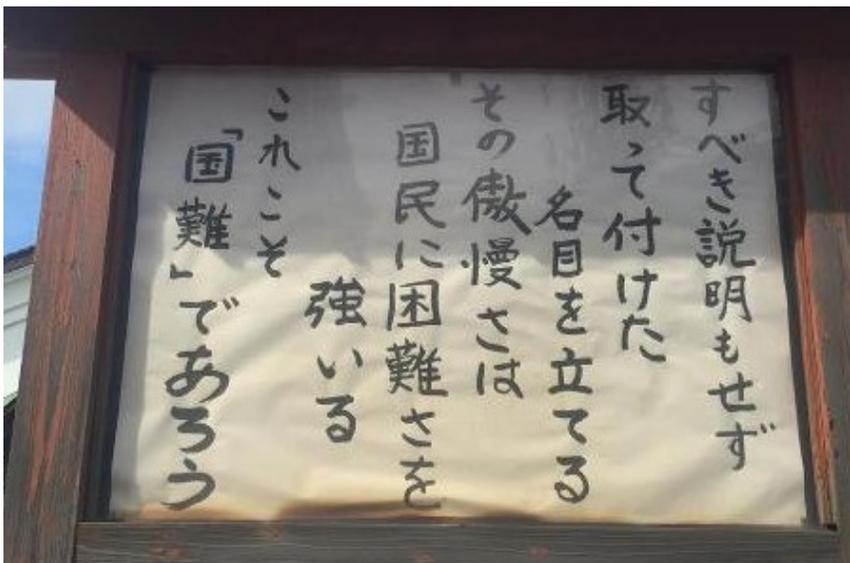


【サラシナショウマ】キンポウゲ科の多年草。漢字で「(晒菜升麻)」と書きます。山裾などで白い花がピョンと伸びていたら、ほとんどこの花です。旧頸北、旧東頸ではいまが花盛りです。写真は浦川原区にて撮影。

制については平成29年の降雪時にもできていたし、今後ともこの体制でのぞむと答弁しました。がかかり過ぎではないか」などの意見も出ました。



栗ご飯が美味しい季節です。



直江津は三八市の通りに真宗大谷派寺院、聴信寺の掲示板があります。この掲示板の文章がいま話題になっています。風刺が効いていて鋭く、わかりやすいですね。私がこの写真を全国に発信したところ、どんどん広げられています。

# はしづめ法一の活動レポート

**No.1828 2017.10.15**  
 発行・編集 日本共産党上越市議 橋爪のりかず  
 Tel 025-548-3628  
 通じないときは 090-5392-1961  
 E-mail hasiznyg@ruby.ocn.ne.jp  
 URL <http://www.hose1.jp/>

ブログ  
 「ホーセの見  
 てある記」は  
 ← こちら

橋爪法一 検索

# 春よ来い

## 第四七六回

### とちやは殿様

たまには早く家に帰るものですね。一〇月上旬のある日、早く帰ったおかげでいい思いをしました。

この日、私は三和区での用事を終わらせ、その後、いったん家に帰りました。家に着いたのは午後四時半頃だったでしょうか。こんな早い時間帯に家に戻ったものから、母もびびくりしていました。

母は、デイサービスへ行かない日はほとんど居間でテレビを観たり、寝たりしています。この日も居間で横になっていました。横になっていた場所は、ふだん、私が座っている場所です。

私の姿を確認した母は、すぐに起きて、自分の居場所である電動イスのところへ移ろうとしました。私は、その動きを制止し、「そのまま動かないでいよ」と言いました。私は、母の顔を見たら、事務所へ行って仕事をするつもりだったのです。

ただ、このとき私は、ちよっとだけ、電動イスに座りました。なんとなく、電動イスに座ってみたくなったのです。私が電動イスに座ると、母が私の様子を見て、声をかけてきました。

「とちや、殿様みてえだなあ、アハハ」  
電動イスにはひじ掛けがついています。そこに私が手をのせて、母を覗き込むような姿勢でいたことが殿様のように見えたのかも知れません。母は何を思い出したのか、笑い転がっていました。

一〇年ほど前、父も母と同じ場所で電動イスを使っていました。使い始めの頃は、面白がり、

「とちや、見てみる、ほら」

そう言っって、電動イスを上げたり下げたりしていました。父はスイッチ一つで自分の思い通りに上げ下げできるのが気に入ったのでしよう。まるで、子どもが新しいおも

ちゃを買ってもらったときのようにうれしそうでした。

電動イスを操作していたとき、父もひじ掛けに手をのせていました。じつは、そのとき、私も思ったのです、まるで殿様のようだと。といっても、かっこうだけで、やさしい殿様だったのですが……。

母と数分話をした後、私は地元事務所向かいました。事務所に着いて西の空を見たとき、これまで見たことのないような輝き方をしている夕日に気づきました。雲の中で夕日が沈み始め、黄金の光がスジとスジと大地に降りてきていたのです。私は大急ぎで、わが家に引き返しました。

わが家に引き返したのには理由がありました。わが家の近くの畑にはヤナギバヒマワリの咲いている場所があり、その花を入れて夕日を撮影したいと思ったのです。畑に着いたとき、空いっぱい広がった雲の下の方に五か所ほど穴があいていて、そこから黄金の光が地上を照らし出していました。そして、ヤナギバヒマワリの黄色の花がこの光と見事に合致していました。

この光景を見て、私は惚れ惚れしてしまいました。もし、この光景がほんの一瞬だけならば写真を撮ることはできなかったかも知れません。幸い数分間続いたので、写真も撮ることができました。

この日も私が帰宅したのは夜遅くになりました。母は数日前に安塚でもらった大きな栗を入れて蒸かした赤飯を用意していました。すでに別の場所で夕飯を食べていた私は、「てしよ」に入れて食べました。

母が蒸かした栗入り赤飯は格別でした。とてもうまい。私が食べているとき、母は電動イスに座って私のすぐそばにいました。母を見たとき、私はあつと思

いました。母もまた殿様に見えたのです。

## 柿崎区で第20回森と緑の感謝祭開催

第10回森と緑の感謝祭が9日、柿崎小学校体育館で行われました。実行委員会主催。上越地域振興局管内の自治体関係者、森林組合など200人ほどの人たちが集まり、美しく緑豊かなふるさとを残そうと決意し合

ました。  
今回の感謝祭では、にいがた緑の百年物語緑化功労者表彰や標語コンクール表彰などが行なわれました。功労者表彰を受けたのは柿崎区の小林昭三さんと吉川区の横田力さんです。お二人とも吉川区国田出身で、頸北林業研究会に係わっていますが、それぞれ持ち味を生かして頑張っておられました。小林さんは年間300日ほど山林に入って森林の手入れをされておられるとのことですが、すごいですね。横田さんは新潟県指導林家に認定され、後継者育成にも尽力されています。

標語コンクールで最優秀賞に輝いたのは柿崎小学校6年の山田なのはさんの「みんなで守ろう 地球の未来 増やしていこう 緑の命」でした。

森と緑の感謝祭宣言は、柿崎小学校4年生のみなさんが行いました。「森は、清らかな水と空気をつくり、災害を防ぎ、美しい風景



と豊かな海を育み、多様な文化を生み出す源」「私たちは、自然に囲まれたこの柿崎の地で、森や花を愛する心、ふるさとを愛する心を忘れずに、美しく緑豊かなふるさとを残していくことを誓います」とのべました。

記念植樹は柿崎小学校の校庭で、アジサイを植えました。

### 上越地域各消防署における空間放射線量測定結果

測定は毎日午前9時。数値はマイクロシーベルト。1時間当たりの測定量です。  
消防署によると、通常は1時間当たり0.016~0.16μSv(マイクロシーベルト)だとのこと

	10月4日(水)	10月11日(水)
上越南消防署	0.047	0.043
上越北消防署	0.050	0.043
新井消防署	0.053	0.050
頸北消防署	0.043	0.047
頸南消防署	0.050	0.053
東頸消防署	0.053	0.043
高士分遣所	0.040	0.050
名立分遣所	0.050	0.053